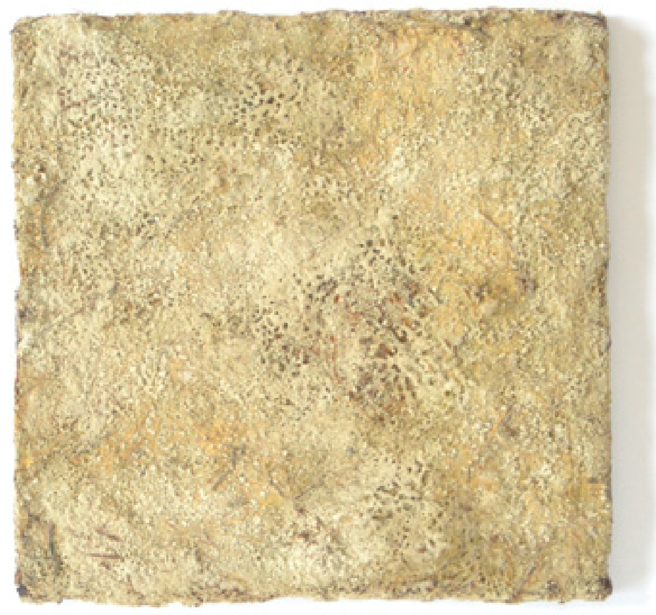
作品について解説させて下さい。

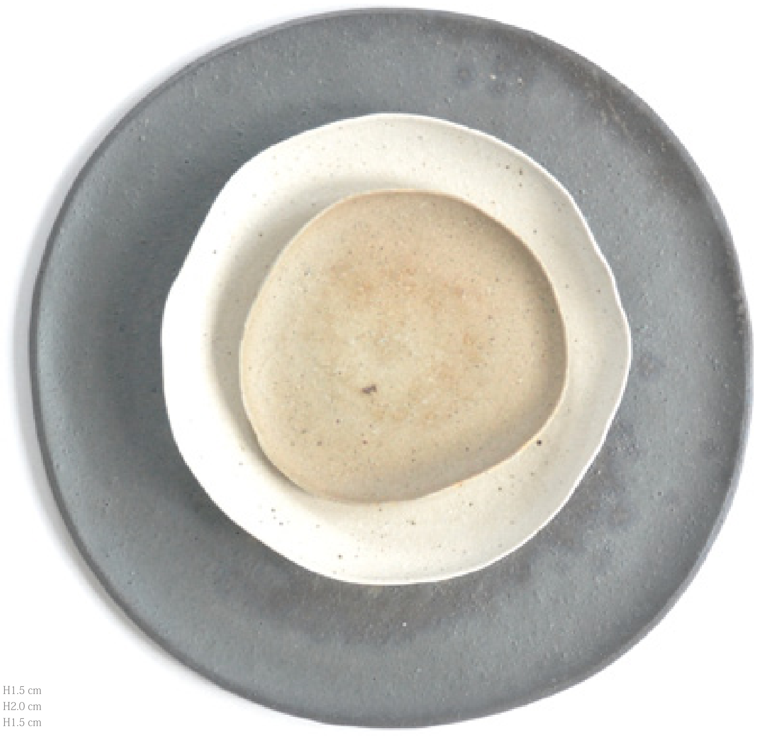
まず、うつわ（砂いこみ）について
うつわづくりをはじめてからずーっと「思い」みたいなものがつくりたいと思っています。
液体や固体を、特に食物を一時的に溜めておく、身体とそれの間に、最低限の存在として殻もしくは皮のようなものでありたい。
それを身近な素材を集めて具体化すること。
現時点でうつわが、僕にとってこの様なものであったら良いなと思います。
そこで、流体状の土（泥）を用意して、海岸で見つけた丸石で砂に穴をあけ、そこに泥を流し込む方法を考えました。
砂型の密度の関係からか、乾燥した時点で歪みが出ます。
これは以前、子供と砂浜を散歩中に何気なく砂に棒を突き立てた時に出来たクレーター状の穴の何とも美しい形に、ひとつのうつわの理想を感じ、そこに泥を流し込んでコピーをとったのがきっかけでした。
可塑性による造形の喜びは失うのですが、それらの器がうまれてくる様子は、砂浜でみつけたウミガメのたまごや、家の床下に見つけたヤモリのたまごを見ているようで、何だかとても嬉しいです。

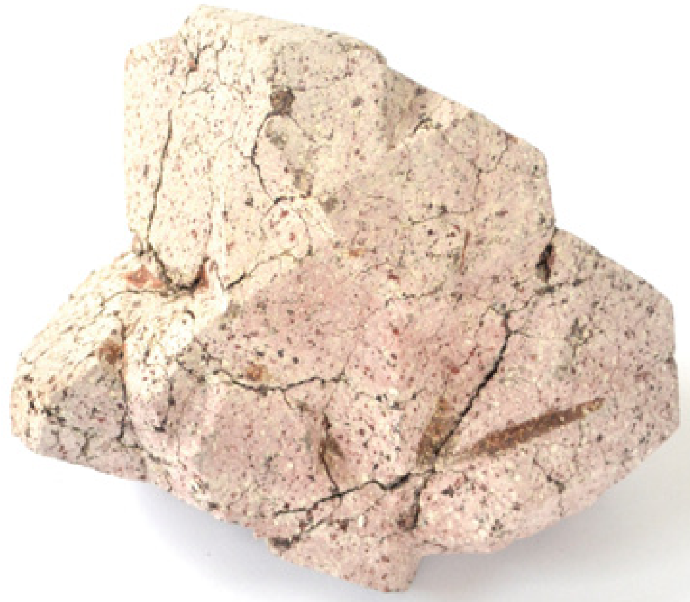
土の造形物について
道を歩いていたり、車を運転していると、崩れてきた土の塊に出会います。それらに縁を感じ、大切に拾い集めました。
表面の凸凹に忠実に、表面を刃物でトレースした後、焼き固めました。
人間が拾って、トレースして、焼いたことによって、その土の持っていた素性や母岩の気質等も少し感じられる様なやきものになった気がします。
これは現時点でのやきものとは何か、に対しての出来る限りのカタチです。

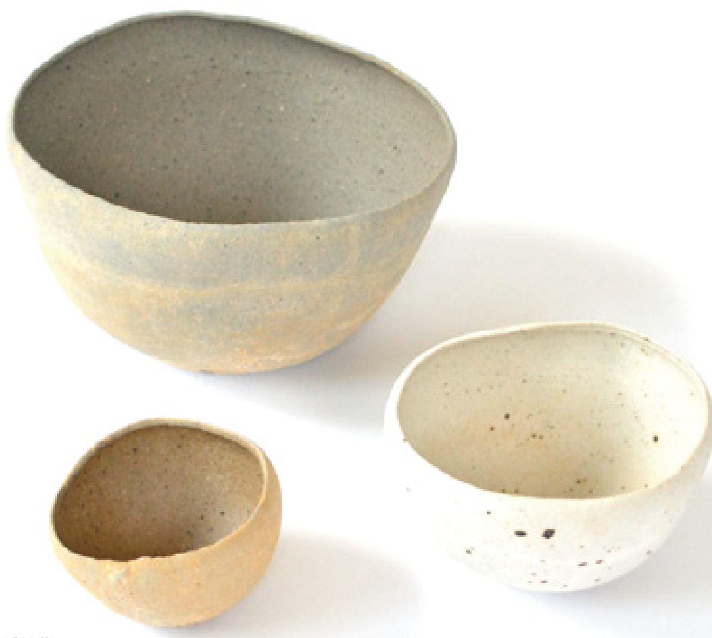
草の作品について
冬、植物は枯れて倒れ、土には霜が降り、草は少しずつ土になっていきます。これから土となる、エネルギーの移ろいを切り取った作品です。
一見、やきものとは無関係の様ですが、僕にとってはほとんど同じものと思えます。
今回の展示は身の回りのいくつかの同じものを目指しています。

渡辺 隆之


草の作品
W21 D21 H2 cm


うつわ（砂いこみ）
小 W11 D11 H1.5 cm
中 W16 D16 H2.0 cm
大 W26 D25 H1.5 cm


土の造形物
W21 D12 H14 cm

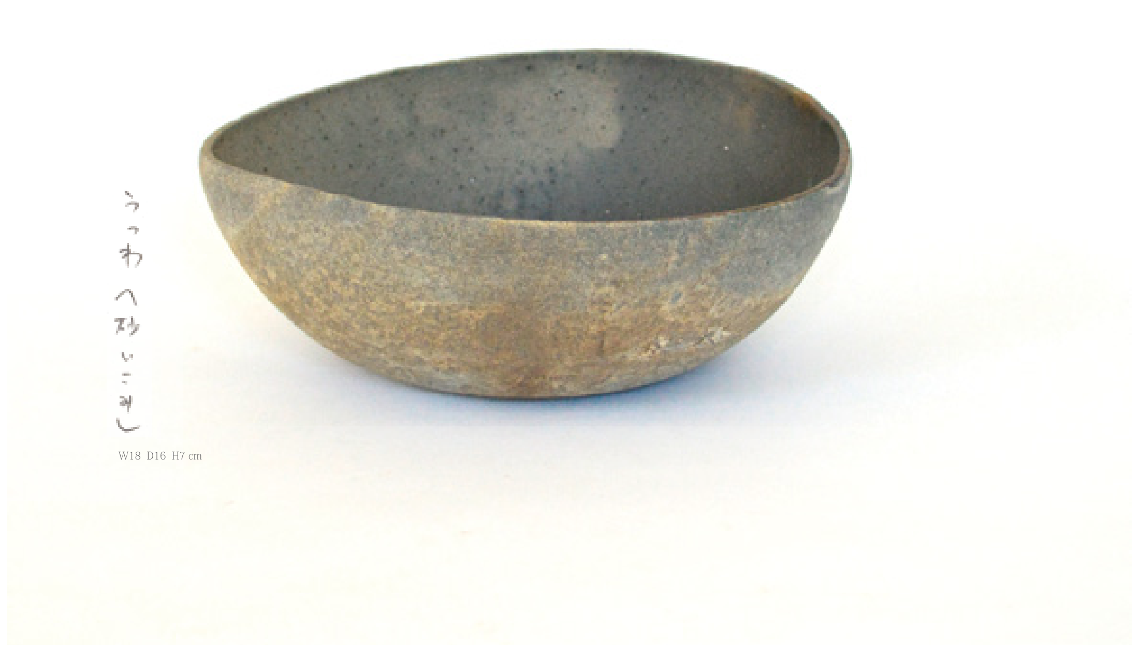

うつわ（砂いこみ）
小 W6.5 D6.0 H4 cm
中 W9.0 D8.5 H5 cm
大 W13 D12 H7 cm

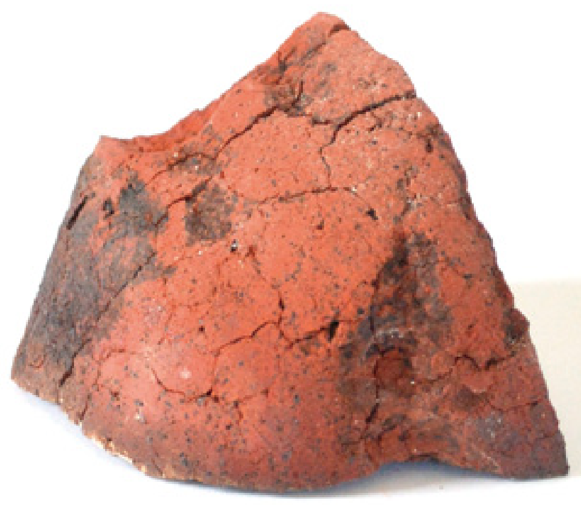
渡辺隆之展　土の声

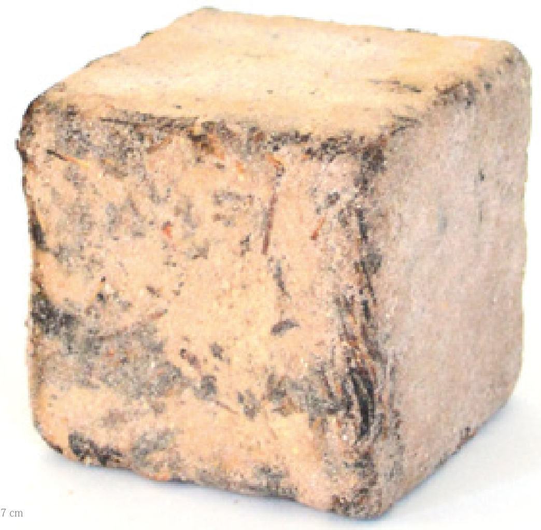
POST CARD

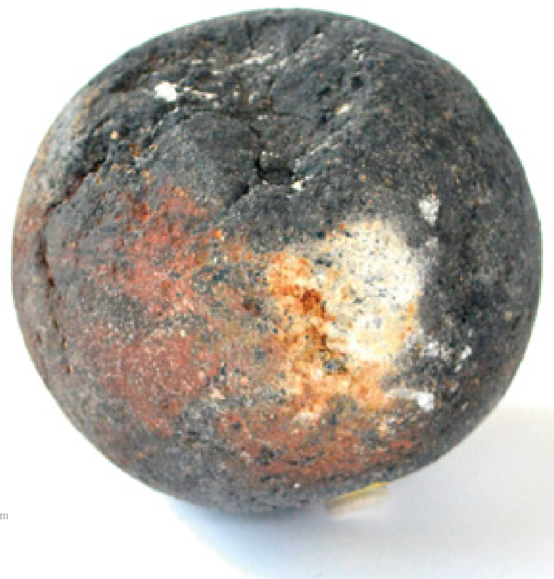
料金後納
ゆうメール

渡辺隆之展　土の声
二〇一八年 十月二十日（土）～二十八日（日）　会期中無休
営業時間　十一時～十八時　　作家在廊日　十月二十日（土）
ギャラリーうつわノート　埼玉県川越市小仙波町１丁目７の６


うつわ（砂いこみ）
W18 D16 H7 cm

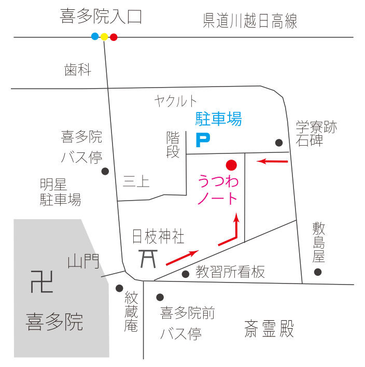

土の造形物
W11 D10 H7 cm


草の作品
W7 D7 H7 cm


土の造形物
W9 D9 H8 cm

渡辺隆之プロフィール

1981年	静岡県生まれ
2000年	やきものをはじめる
2001年	芳村俊一氏に会って土への魅力を深める
2002年	インド、ネパールで土器の生活を知る
2004年	中国で量産陶器を見る
2005年	黒田泰蔵氏の工房で働く
2007年	アジア７カ国の土器文化を巡る
2008年	南伊豆に移住　良い土が出る
2010年	薪窯をつくる　初窯を焚く トラックの荷台で道売りをはじめる
2012年~	クラフトフェアや個展で発表する
2018年	現在、静岡県伊豆の国市で制作



ギャラリー うつわノート
埼玉県川越市小仙波町1-7-6
TEL　049-298-8715
MAIL　utsuwanote@gmail.com

電車：川越駅(東武東上線・JR)より徒歩25分
　　　本川越駅(西武新宿線)より徒歩20分
バス：駅東口3番乗場 [小江戸名所めぐり] ～ [喜多院前]
　　　駅西口2番乗場 [小江戸巡回バス] ～ [喜多院]
車　：ギャラリー専用の新駐車場は北側(5～8番)

やきものは自分で掘ってきた土を如何に焼きあげるかに執心することも多く、それぞれの表現があります。静岡県伊豆の国市で暮らす渡辺隆之さんも同様に、自然の土をそのまま活かしたやきものを主にしているのですが、土と火の闘いとか、古典の探究とかいった方向とは違って、もっと土の自然性から生まれる調和的な造形を求めているように思います。外形的に見れば、土器のようだったり、アートピースのようだったりするのですが、土と対話しながら、その一部になろうとする方法を探っているのでしょう。例えば今展に出品する「砂いこみのうつわ」は、なるべく人の手に触れぬ方法によって形を作っていますし、「草の作品」においては、草の繊維に土や灰や蜜蝋を染み込ませ、焼かずに乾燥させたまま生の土の質感を得ています。作為的であることを放棄することで成立する、ふわりとした境界の曖昧な立体物。そこら辺にあるもの感。それはご本人のお人柄とも重なる訳ですが、その不思議な存在感はどこからくるのでしょう。自然の循環のなかに自己を同化させることで聞こえてくる土の声。そのささやきに耳を傾けることが渡辺さんの面白さでしょう。店内がどんな空気に包まれるのか、楽しみな展覧会です。　店主

GALLERY
うつわノート

2018年10月20日（土）～28日（日）　会期中無休